

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（中学校用）

都道府県名 | 北 海 道

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	大成町立大成中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	4	13
生徒数	13	13	26	1	53	

II 研究の概要

1. 研究主題

『学習に興味・関心を持ち、主体的に取り組む生徒の育成』
～学習意欲を高め、確かな学力を身につけるための授業の在り方を求めて～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

○全学年・英語

- ・生徒の理解の状況に差が出やすい教科であるため
- ・本校の中心的研究内容のTTを実施しやすい教科であるため

(2) 年次計画

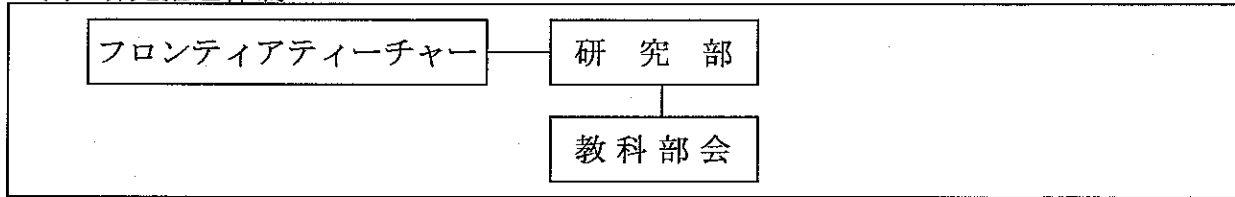
平成15年度

- テーマ
学習意欲を高め、確かな学力を身につけるための指導方法の工夫
- 研究の見通し
興味・関心を引き出す授業の再構築により、生徒が主体的に学習する態度を培うことができる。
TTや少人数指導、指導体制や指導方法の工夫により、生徒の学習意欲を高め、確かな学力を育てることができる。
- 研究の内容・方法
 - 1 生徒の興味・関心をわき立たせ、学ぶ意欲を高める教材の開発
 - ①一斉指導におけるワークシートや学習カードの工夫
 - ②生徒が自分で選択し、学習するための教材の開発
 - ③生徒の習熟の程度に応じた発展教材や補充教材の開発
 - 2 基礎的・基本的な内容の定着を図る指導体制・指導方法の工夫
 - ①個別指導や少人数指導におけるTTの工夫
 - ②選択教科におけるコース別学習の工夫
 - ③英単語の校内検定の実施と英検受験の奨励と指導

平成16年度

- テーマ
学習意欲を高め、確かな学力を身につけるための評価の工夫
- 研究の見通し
一人一人の目標の到達状況を把握できる評価を工夫することにより、個に応じた指導の改善・充実に生かすことができる。
- 研究の内容・方法
 - ・個に応じた指導の改善に生かす評価の工夫
 - ①目標の到達状況（基礎的・基本的な内容の定着状況）を把握する評価方法の開発
 - ②生徒が自らの学習状況を確かめるための自己評価や相互評価の工夫

(3) 研究推進体制



Ⅲ 平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

* TTに関わるアンケートの結果

Q1 授業はわかりやすいですか (「かなりわかりやすい」「わかりやすい」と答えた生徒の割合%)

学年	6月(2ヶ月経過)	12月(7ヶ月経過)	増加
1年	75%	83%	+8%
2年	31%	93%	+62%
3年	67%	88%	+21%

Q2 一人一人への対応はよいですか (「かなりよい」「よい」と答えた生徒の割合%)

学年	6月(2ヶ月経過)	12月(7ヶ月経過)	増加
1年	75%	83%	+8%
2年	54%	86%	+32%
3年	71%	96%	+25%

Q3 授業に工夫がありますか (「工夫がある」「これまでも工夫があった」と答えた生徒の割合%)

学年	6月(2ヶ月経過)	12月(7ヶ月経過)	増加
1年	92%	83%	-9%
2年	23%	86%	+63%
3年	71%	92%	+21%

Q4 学習への意欲は高まりましたか(12月)

学年	かなり高まった	高まった	合計
1年	50%	8%	58%
2年	14%	50%	64%
3年	63%	33%	96%

この他、英語科でTTを行う「よさ」を感じている生徒は、1年生で92%、2年生で71%、3年生で87%いる。その理由としては、①一人一人の質問に素早く対応してくれる ②わかりやすく教えてくれる ③わかるまで教えてくれる ④みんなが早く進んでも、もう一人の先生にゆっくり教えてもらえる などであった。

◎ 今年度の成果

[生徒側] 上記アンケート結果からもわかるように、TTを実施するなど教師側の指導方法の工夫によって学習への意欲が高まった生徒は、時を追うごとに多くなっており、一応の成果は見られた。また、課題解決的な学習の仕方が理解でき、自分の課題に向かって意欲的に取り組む姿勢がよく見られるようになった。

[教師側] 本校の生徒の実態に合ったTTを行うことで次のような成果が得られた。

- ① TT研修会等を通して理論研究が進んだ。
- ② ワークシートや学習カードが工夫され、活用が毎時間見られるようになった。
- ③ 評価規準をもとに生徒一人一人の学習の到達具合を知り、指導の改善につなげていくことができた。
- ④ 指導と評価を一体化させた指導案づくりが軌道に乗ってきた。

